

## 令和2年国勢調査 －人口等基本集計結果からみる我が国の外国人人口の状況－

総務省統計局統計調査部国勢統計課長 小松 聖

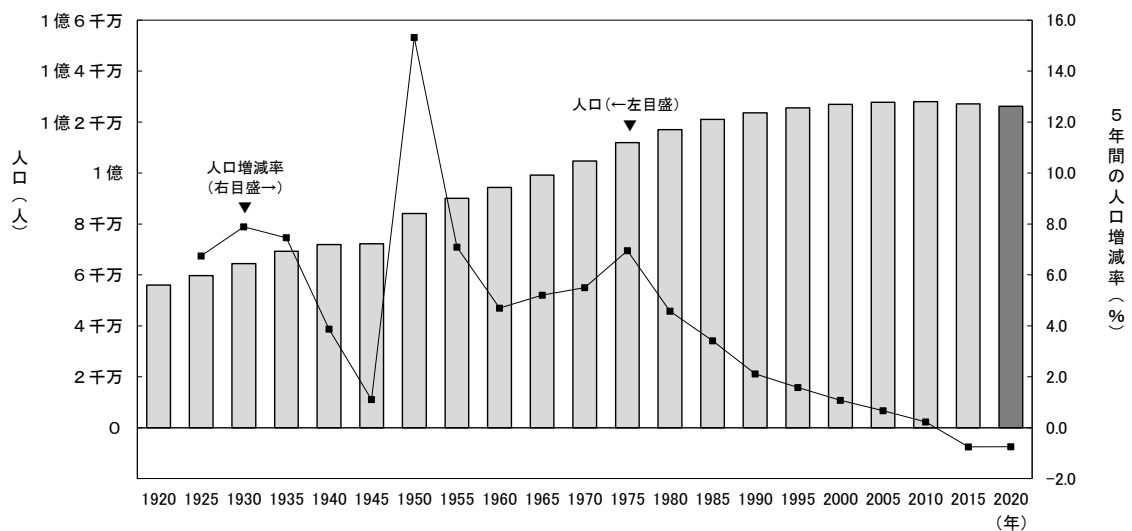
令和2年10月1日を調査期日として実施しました令和2年国勢調査について、令和3年6月25日に速報値として公表した「人口速報集計」に続き、11月30日に確定値となる「人口等基本集計」の結果を公表しました。今回は、この「人口等基本集計」の結果の中から、外国人人口に着目した内容を御紹介します。

### 日本の人口は1億2614万6千人、2015年に引き続き人口減少

日本の人口は、2020年10月1日現在、1億2614万6千人で、2015年から94万9千人、率にして0.7%の減少となりました。国勢調査は、1920年に第1回調査が行われ、その後5年ごとに実施し、我が国の人口や世帯の実態を明らかにしてきました。調査開始以来、一貫して増加してきた人口は、前回の2015年調査で初めて減少となり、今回も、これに引き続き人口減少となりました（図1）。

なお、この減少数（94万9千人）は、2020年の香川県の人口（95万人）とほぼ同規模です。

図1 人口及び人口増減率の推移（1920年～2020年）



## 日本人の人口は引き続き減少。一方、外国人の人口は増加

日本人と外国人の人口のそれぞれの推移をみると、2015年と比べ、日本人人口が178万3千人減少（1.4%減）する一方で、外国人人口は83万5千人の増加（43.6%増）となっています。日本人は2010年から引き続き減少し、減少率も拡大が続いている中、外国人は増加が続いています。総人口に占める外国人の割合は2015年の1.5%から2.2%に上昇しており、特に2015年から2020年の外国人の増加率（43.6%）は、近年と比較しても、高くなっています（図2、3）。

図2 日本人人口及び日本人人口増減率の推移（1975年～2020年）

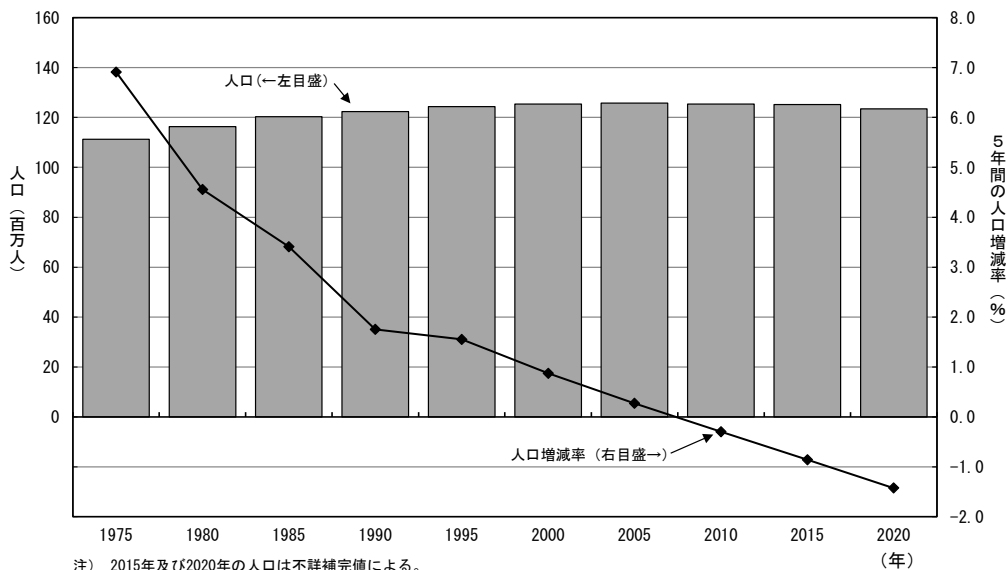
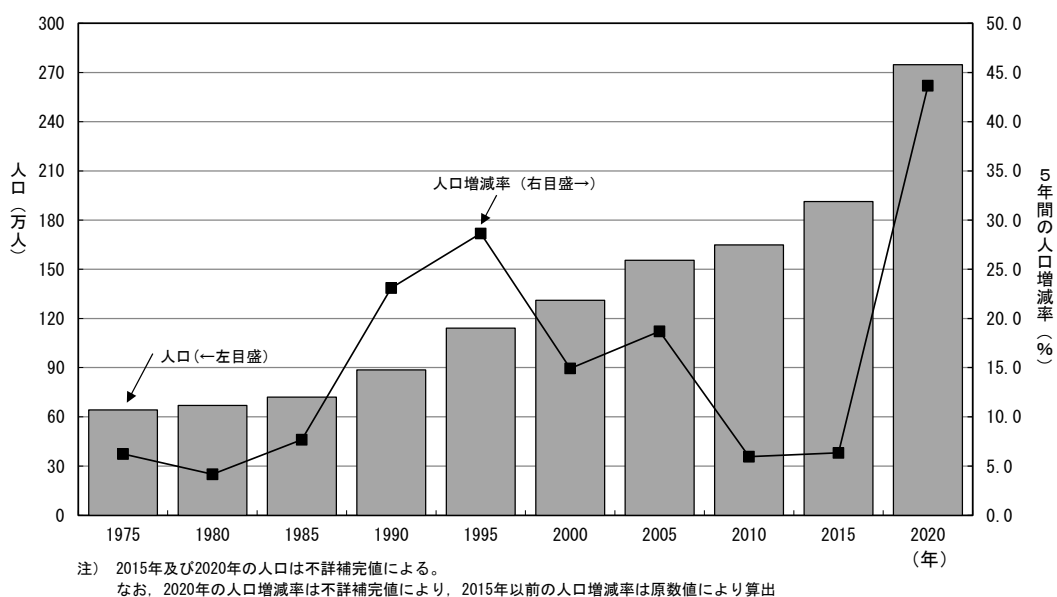


図3 外国人人口及び外国人人口増減率の推移（1975年～2020年）



## 外国人人口は「中国」が最も多く、「ベトナム」が最も増加

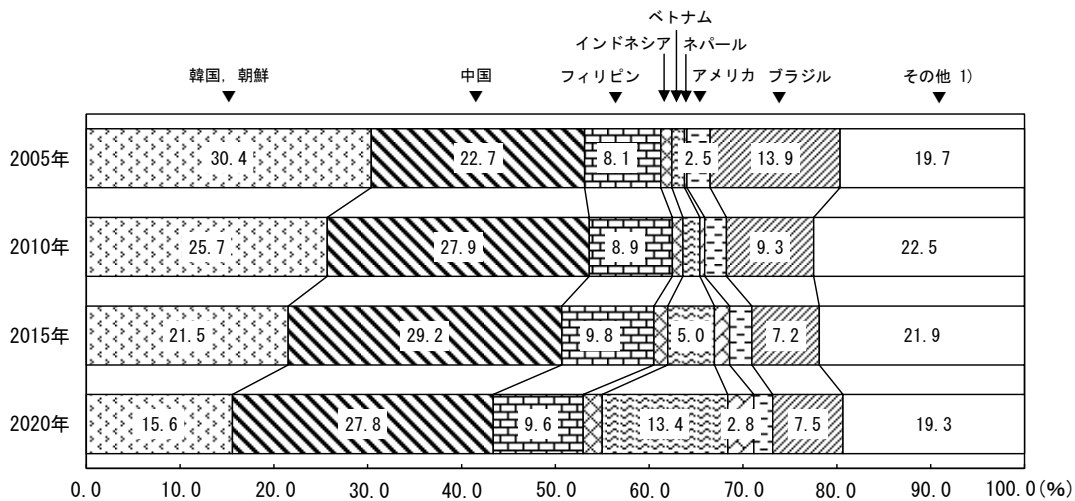
このように、近年著しく増加している外国人ですが、これを国籍別にみると、「中国」が66万7千人と最も多く、次いで「韓国，朝鮮」が37万5千人、「ベトナム」が32万1千人と続いています。また、2015年からの増減数をみると、「ベトナム」が23万4千人の増加、「中国」が15万6千人の増加となり、「韓国，朝鮮」は2千人の減少となっています。

外国人人口に占める国籍別の割合を2015年と比べると、「韓国，朝鮮」が21.5%から15.6%に低下、「中国」が29.2%から27.8%に低下しているのに対し、「ベトナム」が5.0%から13.4%と8.4ポイントの上昇となっています（図4）。

在留外国人統計（出入国在留管理庁）※によると、外国人は、永住者（特別永住者を含む。以下同じ。）や定住者、技能実習生、留学生、就労のため一定期間在留する者など様々な目的で居住しており、近年特に増加している「ベトナム」は、技能実習生や就労のため一定期間在留する者が大きく増加しています。

※引用 URL <https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/index.html>

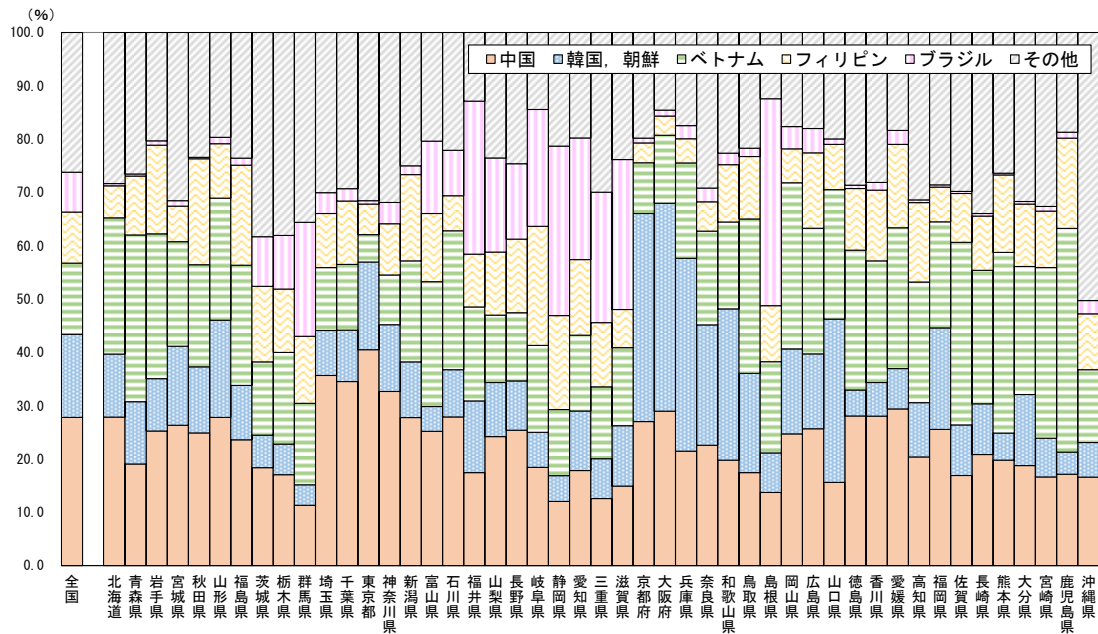
図4 外国人人口に占める国籍別の割合の推移（2005年～2020年）



1) 外国人のうち無国籍及び国名「不詳」を含む。

なお、外国人人口に占める国籍別の割合を都道府県別にみると地域により違いがみられます。「中国」の割合は、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県などで高く、「韓国，朝鮮」の割合は、京都府、大阪府、兵庫県などで高くなっています。一方で、「ベトナム」の割合は、幅広く多くの地域で高くなっています（図5）。

図5 都道府県別外国人人口に占める国籍別の割合（2020年）



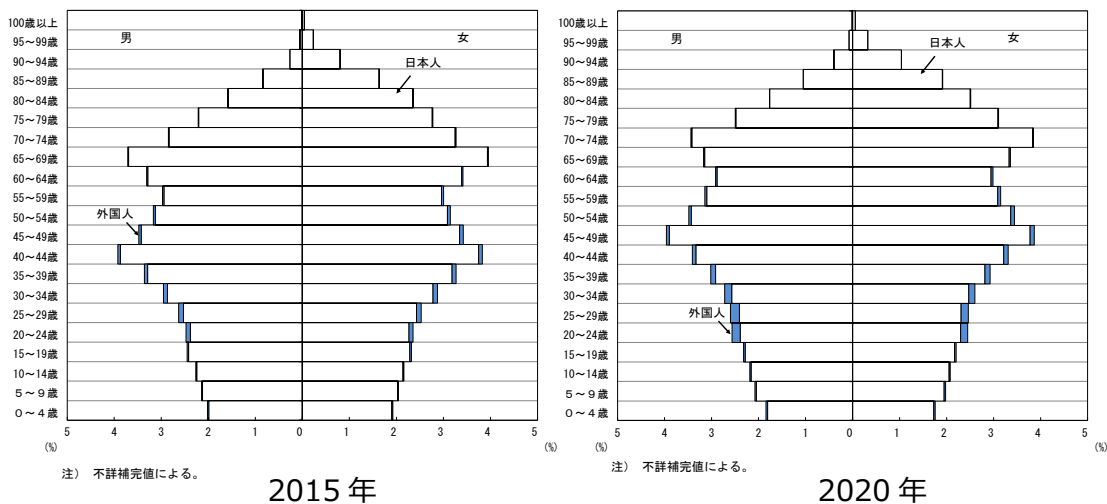
### 外国人は20歳代の若い働き手世代が多い

次に外国人の年齢別の分布を、日本人も含めた全体の年齢別の分布と比較してみます。

我が国の人口を年齢別、男女別の人口ピラミッドで見ると、少子高齢化が進んでいる、いわゆる「つぼ型」に、第1次ベビーブーム（71～73歳）と第2次ベビーブーム（46～49歳）の二つの山が合わさった分布になっています。

そのうち、外国人（青色）をみると、若い働き手世代の割合が高く、特に20歳代に人口が集中し、2015年から2020年にかけて、その割合が高くなっています（図6）。

図6 日本人及び外国人の別人口ピラミッド（全国）



## 地域により、居住している外国人の状況は様々

前述のとおり、外国人は様々な目的で日本に居住しており、地域により、外国人の割合、年齢及び国籍に違いがあります。

2020年の外国人人口の割合が高い市区町村について特徴をみてみます（表1）。

**表1 外国人人口の割合が高い市区町村（2015年、2020年）**

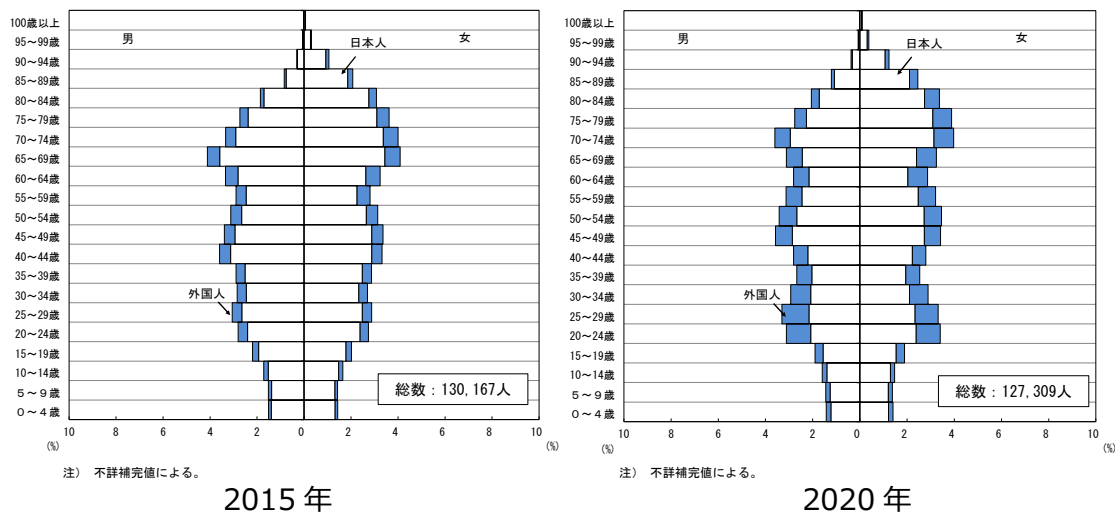
順位 1)	市区町村	総人口に占める 外国人人口の割合 (%)		割合の差 (2015年～ 2020年) (ポイント)	外国人人口に占める国籍別の割合 (%)								
		2015年	2020年		1位		2位		3位				
					国籍	割合	国籍	割合	国籍	割合			
	全国	1.5	2.2	0.7	中国	27.8	韓国、朝鮮	15.6	ベトナム	13.4			
1	大阪府 大阪市生野区	13.4	21.8	8.4	韓国、朝鮮	76.3	中国	10.5	ベトナム	8.2			
2	長野県 川上村	15.8	19.0	3.2	フィリピン	31.9	インドネシア	21.8	中国	19.6			
3	群馬県 大泉町	14.7	18.4	3.7	ブラジル	57.5	ペルー	12.9	ネパール	5.1			
4	長野県 南牧村	12.6	14.0	1.4	フィリピン	42.7	ベトナム	33.0	インドネシア	8.2			
5	大阪府 大阪市浪速区	10.6	12.4	1.8	中国	47.5	韓国、朝鮮	20.9	ベトナム	17.2			

注) 「総人口に占める外国人人口の割合」は不詳補完値により、「外国人人口に占める国籍別の割合」は原数値による。

1) 2020年の外国人人口の割合による。

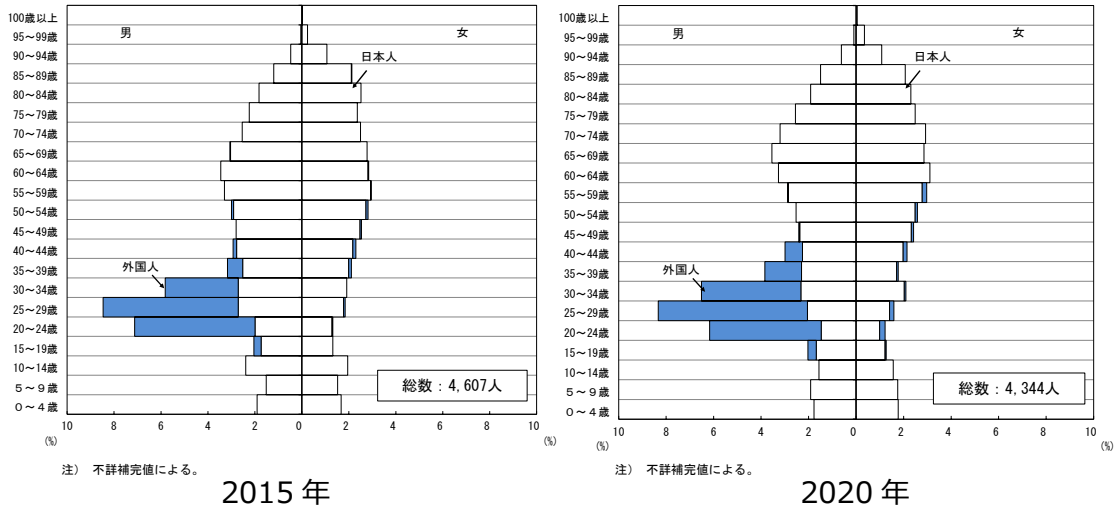
大阪府大阪市生野区は「韓国、朝鮮」の占める割合が高く、在留外国人統計によると永住者が多い地域であり、人口ピラミッドでは幅広い年齢層に外国人人口が分布しています。また、永住者に続いて多いのが留学生であり、2015年と比べると、特に20歳代の割合が高くなっています（図7）。

**図7 日本人及び外国人の別人口ピラミッド（大阪府大阪市生野区）**



長野県川上村は、レタス農家で有名な地域であり、在留外国人統計によると技能実習生が多く、男性の20歳代に多く外国人人口が分布しています（図8）。

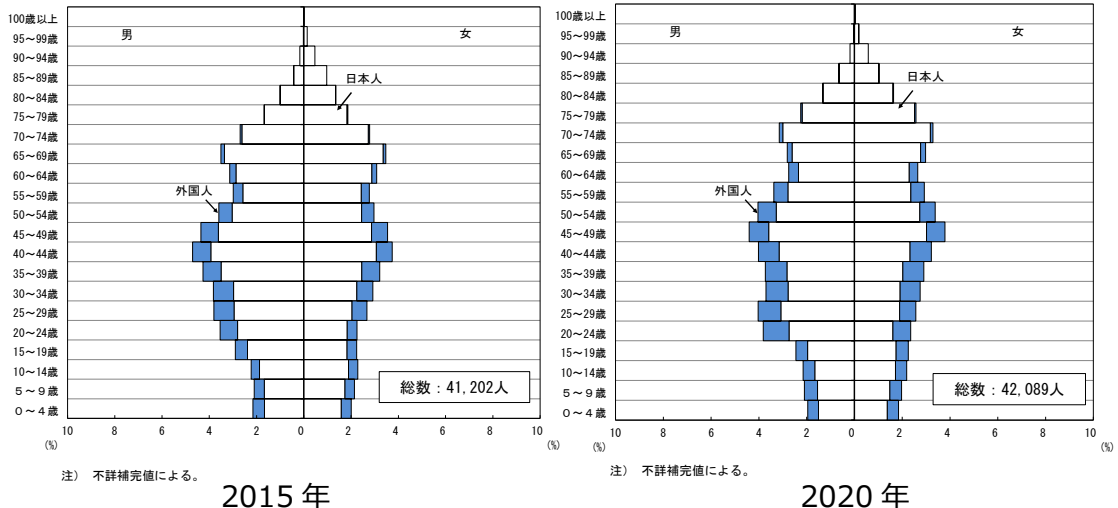
図8 日本人及び外国人の別人口ピラミッド（長野県川上村）



群馬県大泉町は、大手自動車メーカーの工場などがある地域であり、在留外国人統計によると永住者や定住者が多く、「ブラジル」の占める割合が高くなっています。

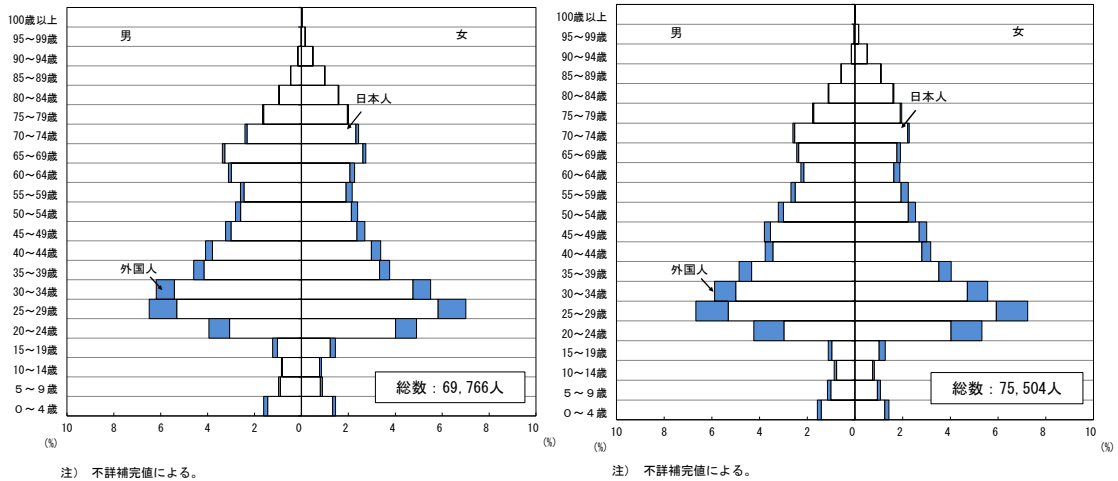
なお、外国人人口の高齢層の割合が低くなっていますが、その背景としては、「ブラジル」などからの来日が特に増加したのが、比較的近年の1990年代からであることが考えられます（図9）。

図9 日本人及び外国人の別人口ピラミッド（群馬県大泉町）



大阪府大阪市浪速区は、在留外国人統計によると永住者、留学生、就労のため一定期間在留する者がそれぞれ多い地域であり、幅広い年齢層に分布していますが、特に20歳代に多く分布しています（図10）。

図10 日本人及び外国人の別人口ピラミッド（大阪府大阪市浪速区）



2015年

2020年

次に、この5年間で外国人人口の割合が大きく上昇した地域についてみてみます。外国人人口の割合は、全国的に上昇しており、特に大都市において強くその傾向がありますが、割合が大きく上昇した市区町村の上位をみると、必ずしも大都市ばかりではなく、リゾート開発によるレジャー関連産業が盛んな北海道占冠村や、外国人向けの学校が設立された群馬県高山村など、地域事情を背景として割合が上昇しているところもあります（表2、図11、12）。

表2 総人口に占める外国人人口の割合が大きく上昇した市区町村（2015年、2020年）

順位 1)	市区町村	総人口に占める外国人人口の割合 (%)		割合の差 (2015年～ 2020年) (ポイント)	外国人人口に占める国籍別の割合 (%)					
		2015年	2020年		1位		2位		3位	
					国籍	割合	国籍	割合	国籍	割合
	全国	1.5	2.2	0.7	中国	27.8	韓国, 朝鮮	15.6	ベトナム	13.4
1	大阪府 大阪市生野区	13.4	21.8	8.4	韓国, 朝鮮	76.3	中国	10.5	ベトナム	8.2
2	北海道 占冠村	5.0	11.1	6.1	中国	31.0	ネパール	12.4	フィリピン	11.7
3	大阪府 大阪市中央区	2.6	7.8	5.2	中国	44.3	韓国, 朝鮮	30.4	フィリピン	6.0
4	群馬県 高山村	0.5	5.5	5.0	ベトナム	33.2	ネパール	31.6	中国	5.2
5	茨城県 常総市	3.8	8.2	4.4	ブラジル	40.0	フィリピン	21.7	ベトナム	9.9

注) 「総人口に占める外国人人口の割合」は不詳補完値により、「外国人人口に占める国籍別の割合」は原数値による。  
1) 割合の差による。

図 11 日本人及び外国人の別人口ピラミッド（北海道占冠村）

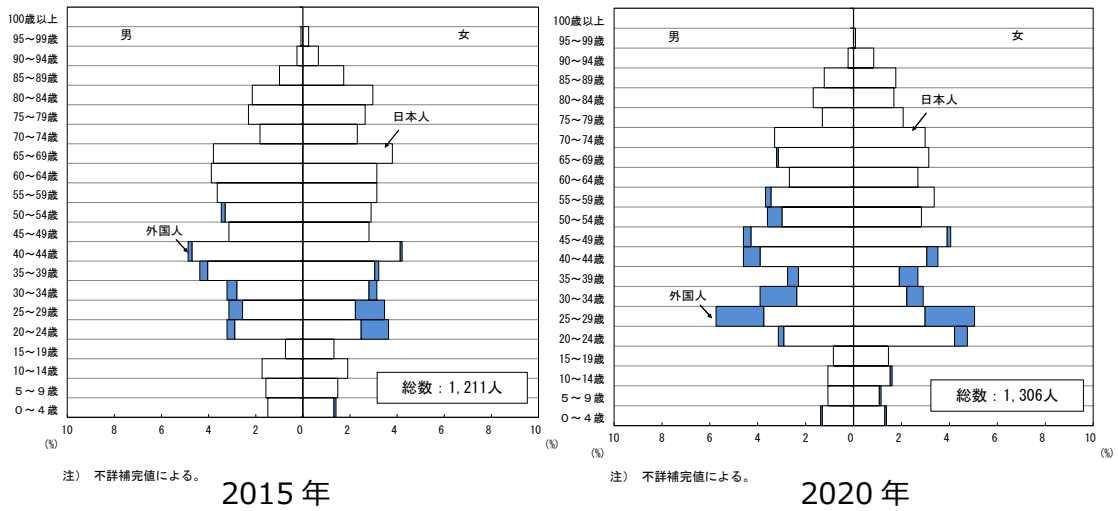
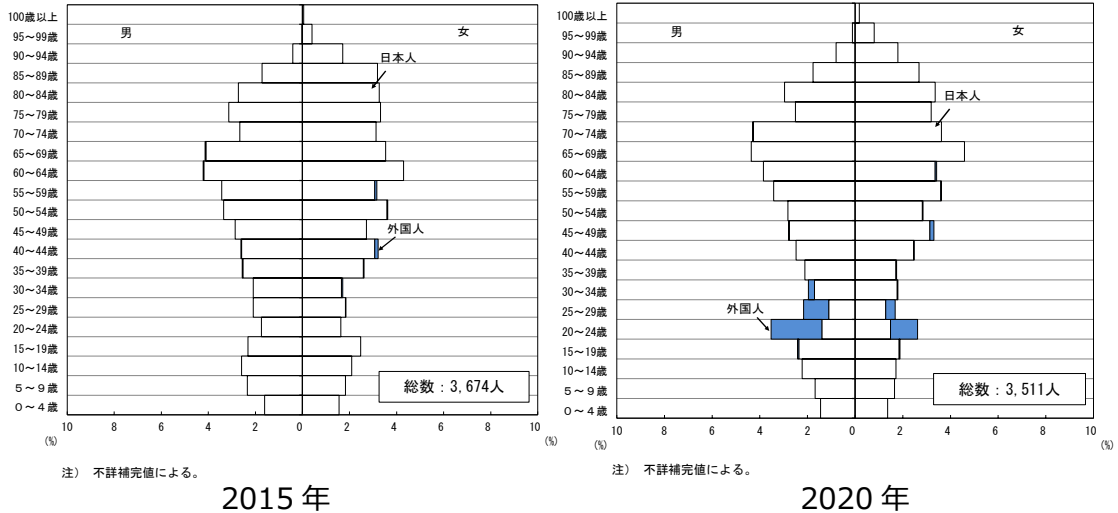


図 12 日本人及び外国人の別人口ピラミッド（群馬県高山村）



新型コロナウイルスの感染拡大に伴う入国制限により、2020年の単年でみれば、外国人の入国は減少しています。しかし、いずれ元の環境に戻れば、引き続き外国人は増加していくことが見込まれます。

今後、人口の減少に伴う人手不足が懸念される日本にとっては、外国人の動向には更に注目が集まると考えられます。



## 今後の集計について

令和2年国勢調査の結果については、今後、転出入状況などが分かる人口移動に関する結果、産業・職業別の就業者数などが分かる就業状態に関する結果、昼間人口などが分かる従業地・通学地に関する結果などを順次公表してまいります。引き続き御注目いただければ幸いです。

(令和4年1月14日)

